

レスポンシブル・ケアマネジメント

レスポンシブル・ケア（RC: Responsible Care）活動とは、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・健康・安全（EHS）」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動で、60を超える国・地域の化学企業が取り組んでいます。

RC活動の世界展開は、1989年の国際化学工業協会協議会（ICCA）設立を機に開始されました。日本では1995年に社団法人日本化学工業協会（日化協）にて日本レスポンシブル・ケア協議会（JRCC）が設立され、当社も設立当時より加盟しています。また、2014年に改訂されたレスポンシブル・ケア世界憲章にも署名し、RC活動への取り組みを強化しています。

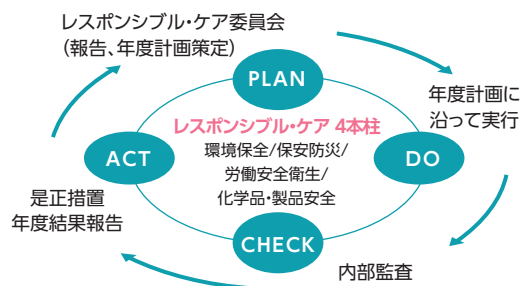
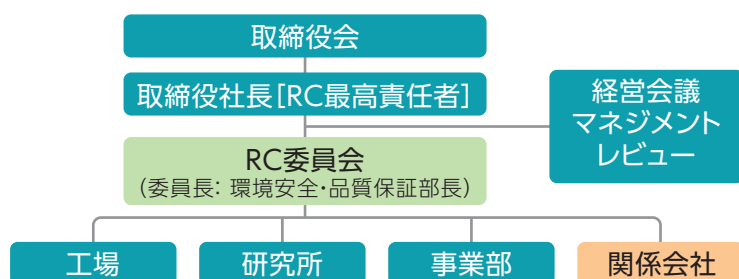
レスポンシブル・ケアに関する基本方針

当社は、事業活動のあらゆるステージにおいて、EHSに関して優先的に取り組む事項をRCに関する基本方針に定め、関係会社を含むグループ全体に周知徹底を図っています。

- (1) 製品の開発から廃棄に至るまでの全ライフサイクルにわたりEHSについて継続的改善に努める。
- (2) 事業活動が、人および環境に悪影響を及ぼさないよう管理するとともに、製品の輸送、保管、廃棄に際して、EHSに配慮する。
- (3) 研究開発の段階から、EHS面の検討を行い、より負荷の少ない製品および技術の開発に努める。
- (4) 省資源および省エネルギーを一層推進し、廃棄物の削減およびその有効活用に努める。
- (5) 製品および操業がEHSに及ぼす影響について、行政当局および市民の関心に留意し、正しい理解が得られるように必要な情報を開示し、対話に努める。
- (6) 科学的知見をベースとしたリスク評価およびリスク管理の一層の充実を図り、化学物質管理の強化を推進する。
- (7) 法律・基準を遵守するとともに、自主的な取り組みの推進により、EHSのさらなる向上に努める。
- (8) EHSに係る活動に対する、国内外のステークホルダーの期待に一層応えるために説明責任を果たす。

日産化学レスポンシブル・ケアマネジメントシステム

レスポンシブル・ケア中期計画（右頁参照）を達成するために、全社に環境マネジメントシステム（EMS）の国際規格であるISO14001を基本とするRCマネジメントシステムを構築し、PDCAによる目標管理、継続的改善を行っています。全ての工場、研究所、事業部および関係会社は各々の中期計画、年次計画を立てRC活動を行っています。その活動を推進する組織としてRC委員会を設置しています。委員長は環境安全・品質保証部長、委員は、環境安全・品質保証部担当役付役員、生産技術部長、人事部長、購買部長、全事業部長、全箇所長とし、年1回定期的に開催される委員会では、各箇所の年度活動結果、会社全体の活動総括および次年度のRC目標が討議されます。その結果は、経営会議で報告され、マネジメントレビューを受けて、次年度のRC目標が決定されます。また、全工場はISO14001の第三者認証を取得しています。事業部、研究所、関係会社は社内RC監査により、マネジメントシステムの有効性を確認しています。



レスポンシブル・ケア中期計画(2016-2021年度)の推進

当社は、環境保全・気候変動対策、保安防災、労働安全衛生、化学品・製品安全に関わる活動を着実に推進するため、6年間のRC中期計画を策定しました。中期計画に基づく年度計画を立案し、具体的活動を実行します。

レスポンシブル・ケアコード	中期計画(2016-2021年度)	2016年度計画
環境保全・気候変動対策	- エネルギー原単位改善 2021年度までに2011年度比20%改善 - 温室効果ガス(GHG)排出量削減、原単位改善 排出量: 中計期間(2016~2021年度)の総排出量を、前中計期間(2010~2015年度)比10万トン削減 原単位: 2021年度までに2011年度比20%改善 - 産業廃棄物排出量削減 - CSRサプライチェーン・マネジメント(グリーン調達)システムの確立 - 生物多様性保全への取り組み強化 - 環境配慮型製品の開発・販売促進	- 老朽化設備更新による省エネルギー化 - 廃溶媒の燃料化推進 - アンモニア原料をナフサから液化天然ガスへ変更(GHG 排出量 1 万トン削減) - 廃棄物リユース・リサイクルの促進 - 重要取引先への EHS 監査の実施 - 生物多様性行動指針に基づく継続的活動 - 環境配慮型製品の販売促進
保安防災	- 安全文化醸成と保安力強化 - 製造、工事および研究の事前評価システムの有効性向上	- 安全文化評価方法の最適化 - 事前評価におけるリスクアセスメントの高度化
労働安全衛生	- ISO45001を基盤とした労働安全衛生マネジメントシステムの確立 - 休業災害ゼロの達成	- 設備改善による労働安全の向上 - 労働安全新聞の発行 - RC監査における労働安全衛生の点検強化
化学品・製品安全	- 化学物質のライフサイクルを通じたリスクベースの管理推進 - 人の健康や環境に及ぼす化学物質の影響に関する先端的研究への貢献	- 安全性データに基づく化学物質リスク評価および安全対策の社内標準化 - 化学製品安全性要約書の公開推進 - 日本化学工業協会におけるLRI活動への参画

レスポンシブル・ケア中期計画(2013-2015年度)の達成評価

分野	中期計画(2013-2015年度)	達成評価
環境保全	・エネルギー使用量、原単位向上(毎年前年比1%削減)	☆☆ 使用量で増加するも、原単位では3年間で3%削減
	・PRTR対象物質、有害物質排出量継続的削減	☆☆ 現状維持
保安防災	・安全確保、安定操業の継続	☆☆☆ 安全・安定操業維持
	・工場重大排水・排ガス事故の撲滅	☆☆☆ 排水・排ガス事故ゼロ
	・保安力向上に向けて安全文化評価	☆☆☆ 全工場で安全文化評価実施
	・環境事故ゼロの継続	☆☆☆ 環境事故ゼロ
労働安全衛生	・休業災害ゼロの達成	☆ 休業災害4件発生
	・ルール違反起因の労働災害ゼロの継続	☆ ルール違反起因の災害3件発生
化学品・製品安全	・GPS/JIPS 安全性要約書のアップロード	☆☆☆ 2015年度から開始
	・化学品管理規制への遅滞なき対応	☆☆☆ リスク評価方法や社内体制整備
コンプライアンス	・EHSに関する法規制情報の着実な入手および共有化	☆☆☆ 遅滞なく情報入手し、全社へ配信
	・EHS法規制理解促進とコンプライアンスの維持	☆☆☆ 社内法規制オンサイトセミナー開催 重大違反事例なし

レスポンシブル・ケア監査

RC監査とは、箇所のRC活動が適切に実施され、PDCAサイクルが着実に回っているかを実際にチェックして、EHSに係る顕在化した問題、または潜在的なリスクがあれば、明確に示して改善を促進する活動です。レスポンシブル・ケア監査指針に基づき、環境安全・品質保証部が監査します。2015年度は、以下のようにのべ36回実施しました。



監査対象	監査日	監査対象	監査日	監査対象	監査日
袖ヶ浦工場	6/16、12/1	日星産業	7/22	NCA[アメリカ]	11/12、11/13
埼玉工場	7/8、1/19	日産エンジニアリング 本社	5/14	NCE[フランス]	9/3
富山工場	6/12、12/21、12/22	日産エンジニアリング 中部	5/12	NCK[韓国]	11/26
名古屋工場	6/26、2/5	日本肥糧 新町工場	6/23、11/20	NCT[台湾]	2/24
小野田工場	6/12、1/29	日本肥糧 半田工場	6/5、12/4		
物質科学研究所	7/10、2/10	日産緑化	5/19		
材料科学研究所 船橋	8/6、1/22	環境技術研究所	5/26		
材料科学研究所 富山	8/4、2/16	日産物流	6/9、11/24、 11/25、12/9		
材料科学研究所 袖ヶ浦	7/16、2/18				
生物科学研究所	8/21、2/3				

生産活動による環境負荷

環境負荷実績フローは、製品を製造するにあたって投入した原材料、エネルギー、水のインプット(投入量)と製品生産、大気や水域への排出、廃棄物のアウトプット(排出量)をまとめており、当社の環境負荷の全体像を表しています。

2015年度の環境負荷実績フロー

